

パレスチナ革命は新たな問題に直面している。二月十九日のヨルダン国王フセインのPLOアラファト派との共同停止宣言演説は、PLOを抜きにし、ヨルダンがイスラエルとの単独和平交渉へと進む方向を示している。パレスチナ革命勢力は、フセイン声明に対し非難声明を発表した。ただし、この事態に、アラファト派は、非難というより、アンマーン合意に戻るよう、フセインへ要請する声明を行っている。他方、イ

スラエルは、フセイン声明を賞讃している。ムバラクは、PLOとフセインの調停に動いた。

一月十五日に、米国務次官マーフィーは、フセインに会った際、PLOがイスラエルの合法的生存権（明確な国境線を持つ国家を認めた国連決議）の承認とイスラエルとの交渉段階方式提案も、米・イスラエルに応えるものとして、実質的にPLOニシアチブの下に、アラファトが入るのか否かを迫るものであった。ペ

ルクセンブルグでの中東和平交渉段階方式提案も、米・イスラエルに応えるものとして、実質的にPLO軍事対決は、一切の政治回路が閉じられた時にのみ、アマル運動の指導者、ナビーハ・ベシ氏とのインタビュー（2月11日）（資料③）..... 12
激動の中東ドキュメント（1986年2月1日～3月7日）..... 16

帝国主義か、反帝国主義か——緊張の高まりの中で、諸勢力の分界線を明確化するフセイン声明

一九八六年三月一〇日

1 フセイン演説前段

目次

帝国主義か、反帝国主義か——緊張の高まりの中で、諸勢力の分界線を明確化するフセイン声明.....	1
ヨルダン案の危険性を暴露せよ ジョルジエ・ハバシュ	
PFLP議長 1986年3月7日「殉教者の日」の集会演説（資料①）.....	6
シリヤ・バース党 レバブン支部長、アッセム・カンソーカ氏語る「武装対峙こそ唯一の道」（抄訳）（資料②）.....	10
軍事対決は、一切の政治回路が閉じられた時にのみ、アマル運動の指導者、ナビーハ・ベシ氏とのインタビュー（2月11日）（資料③）.....	12
激動の中東ドキュメント（1986年2月1日～3月7日）.....	16



第 10 号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03) 291-5533
編集 J. R. A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

緊密な関係にある。去年から今年にかけて目立つことは、イスラエルの国家テロリズムの方法を米国が真似し、反「テロ」の名のもとに、共同して強引な国家テロ軍事行動をとっていることである。また、PLOの分裂によるその国際的地位の低下に乘じ、両国はアフリカ、西欧諸国外交攻勢をかけ、イスラエルとアフリカ反動諸国との外交関係を再建、強化していることである。

占領政策の強化については、「銃拳政策」として、かつてないほど、暴力的な展開をしている。八一年のゴラン高原の併合、八二年のレバノン侵略にひきづき、ガザのゲットー化、西岸における土地の買収、東エルサレムのアル・アクサイスラム寺院に対する政治的・暴力的挑発、西岸からの進歩の人々の追放、南部レバノン「セキエリティゾーン」内の村民の強制退去、追放、そして親イスラエル、ペレスチナ人をたてての傀儡行政のデッチあげ。それらは全て占領地からの撤退ではなしに、占領政策の強化であり、とくに、西岸では、「パレスチナ人の自治」を認めるとして、PLOを完全に排除し、ヨルダンとイスラエルの共同で、行政権を作る方向で展開している。

月刊 中東レポート

具体的な秘密協定がある。交渉は、米国等を通じて行われ、それに PLO が参加するか否かの問題だったのである。

フセインがパレスチナ問題を独自に解決しようと意図していることは、去年一月、西岸代表を含むヨルダン議会を一〇年ぶりに招集した時から明白であり、イスラエルの「鉄拳政策」と符合して西岸統制を行ってきた。ヨルダンは、PLO アラブアートとアーヴィング合意路線を開拓しつつ、他方でイスラエルと積極的に西岸における占領地政策を共同してきたのである。

2 フセイン演説の位置

二月二九日のフセイン演説は、ヨルダン国民に向け、三時間余にわたる長大なものであった。その主要ポイントは、① PLO 指導部との政治的共同は、現在不可能である。一年にわたる PLO 一ヨルダンの中東和平共同ニアシアチブは失敗に終つた② ヨルダン川東岸、西岸とエルサレムに対して、フセインは直接の当事者であり、その土地を守る責務がある、③ そのため、アラブの脆弱さと逡巡という現状においては、外交手段をもって、その土地の返還をか

二月九日のフセイン演

ちとる、④ゆえに、PLOをパレスチナの唯一合法の代表としたラバート会議決議は再検討されねばならず、
⑤また、ヨルダン議会は、西岸住民に対し、より多くの代表権を与えるため、選挙法の改正を準備している——
——というものである。

この中で最も注目すべきことは、西岸・エルサレムに対して、フェセイ・シナは直接の当事者であるとして、その責任を表明していること。言い換れば、パレスチナ代表権をフセイ・シナが持つと言っている点である。まず土地の返還、次に人民のことを言っていることも、結局パレスチナ人民の問題でなく、ヨルダン・ハシミテ王家の土地の確保の問題として把握していることを意味している。ここに、これまでと決定的に質の違う表現がなされているということである。他方で、PLOを、パレスチナ人民の唯一合法的代表と認めないわけではないと言いつつ、西岸・エルサレムの直接的当事者として責任を持つということは、自らその代表権を相もとに、パレスチナ人代表を組み入れることである。ここに、PLOは完全に排除されている。ヨルダンの意図は、PLOを抜き

にし、イスラエルとの和平と土地の返還を行い、被占領地をフセインのもとすることにある。しかし、單独和平の道を公然と歩むことは、反帝・反シオニストの立場を明確化しソ連を背景とした軍事力を持つシリアのイニシアチブが存在している限り、困難である。昨年一二月三〇日のフセインのシリア訪問とシリアとの和解は、そのことを示していた。つまり、P L O 抜きの和平の道と土地の返還の方向が、シリアとの共同なしに行えないということ。もちろん、シリアの政治的立場を認めているわけではない。

現在、ペレスの労働黨

・エバンスは、フセイン演説に感激したとして、次のように語っている。

「我々は長い間、和平交渉の唯一の障害は、PLOであることを言い続けてきた。今、フセイン国王は、この点を確認しうるよう見える」「彼はパレスチナ人とPLOを明確に区別している」と。

ヨルダンは、イスラエルの占領政策に加担することはあっても、パレスチナ人民の解放を支援することはなかった。イスラエルがナブルス新市長に傀儡マスリを任命した。これに西岸パレスチナ人が非難を集中したのに対し、ヨルダンは非難しないばかりか、ストライキで抵抗する人たちに給料停止などの弾圧を加えた三月二日、マスリはPFLPの部隊によつて暗殺された。それは、客観的にヨルダンとイスラエルの実質的に共同に対する打撃となつてゐる。親イスラエルのパレスチナ人を行政者に仕立てていこうとする試みは壁にぶち当つた。マスリの葬儀に一万五〇〇〇人が参加し、占領後最大のデモとなつた。葬儀は反ヨルダンのデモとなり、人々は「フセインは豚、次はお前の番だ」と叫んだ。被占領地のパレスチナ人指導者たちは市長候補を拒否し、マスリ暗殺の責任はイスラエルにあると表明した。

アサド大統領は、シリア人民議会選挙（二月一〇日、一日）後、初の議会開会演説（二月二七日）で「ゴランをイスラエルが併合しようとするれば、ゴランはシリアの心臓部であること、我々は思い知らせるであろう」と語り、三月八日の革命記念日には、「イスラエルとの戦いにおいて、人民の総力をあげて、戦略的均衡を形成しよう」と国民に呼びかけた。それらに対して、イスラエルは、シリアが戦争を挑発しているとして、三月八日、被占領地ゴランを軍事統制下においた。国家間戦争の危機が一挙に高まっている。イスラエルは、自らこの危機を作り出しながら、シリアの所為にし、同時にそれを口実に被占領地人民を統制・支配しようとしている。

南レバノンでは、イスラエル兵二人が、イスラエルの設けた「セキュリティゾーン」内で誘拐され、連れ去られたのに対し、イスラエルは一五〇〇人のイスラエル軍を投入し、大捜査とレバノン住民への弾圧、襲撃を行った。「セキュリティゾーン」は、今やセキュリティゾーンたりえていない。イスラエルは、レバノンとの境界に沿った「セキュリティゾ

「レバノン」内に巨大な壁を作り、レバノン領土、水資源を分割・略奪している。その展開の中で、イスラエル軍はUNIFILと対峙し、南レバノンの統制のためには、UNIFILの撤退が必要として、来月駐留期限の切れるUNIFILの撤退を要求している。

このように、占領政策の強化は、逆に人民の反撃をもたらし、「鉄拳政策」は、ふりおろした鉄拳で自らを擊つことになるだろう。

イスラエル内では、ヘルート党の党大会が開かれている。欧系ユダヤ人とアフリカ系ユダヤ人の対立、新世代と旧世代の対立を反映して、党首シャミルに対し、シャロンとレビが指導権を奪おうと画策している。この分裂状況は、ペレスの労働党政権の安定・長期化を強めるだろう。

ペレスは、一〇月のペレスの首相任期満了までに、ヨルダンとの和平交渉実現を熱望している。イスラエルの側から、より積極的な展開が行われるだろう。

ヨルダンにせよ、イスラエルにせよ、その思惑はそのまま実現するものではない。アラブ人民は単独和平交渉に反対しているし、とりわけシリアの存在は、ヨルダン・イスラエ

権を維持するのか、人民の力が政権を倒していくのかという段階になつてゐる。エジプトはキャンプ・デービッドへの道を歩む中で、完全に米国に経済を牛耳られ、イスラエルとの共存体制に組み込まれている。アラブの中での存在権を取り戻そうとしたムバラクは、一定原則的に非同盟潮流の力で延命しようとしたが、その中途半端な政策展開では、反米と親米の分岐の中できき延びれない結局、フェイイン・アラファトイニニアチブの破産により、米・イスラエルの方向に従わざるをえなくなり、アラブへの復帰を求め、反米・反イスラエルを求める人民と対立せざるをえず、破産してきている。その矛盾が、今回のフェイイン演説に対するムバラクの立場をフェイインとPLOの調停役という立場べと、自ら規制せざるをえなくさせている。

6 バレスチナ勢力

ラクは、米国からの経済援助の拡大を要請している。米国は、米・イスラエルの政策展開に、エジプトが完全に従うことを探る条件としている。ムバラクを右が倒すか、左が倒すかそうした状況として、エジプトは煮つまっている。さらに、さらに、煮つまらざるをえない。

〇日には、ナブルスでイスラエル兵一名を戦死させていた。こうした人民の鬭いは、フセインとアラファトのアンマン合意に基づく和平イニシアチブの破産に対する回答である。

○日には、ナブルスでイスラエル兵一名を戦死させていた。

こうした人民の鬭いは、フセインとアラファトのアンマン合意に基づく和平イニシアチブの破産に対する回答である。

PLOアラファット派は、ヨルダンとの共同という立場を捨てきれず、フセインの共同停止演説に対し、非難というより、アンマン合意にフセインが立ち返るよう要請する立場に立ち、ヨルダンとの関係継続を表明してきている。しかし、フセインは、PLOと他のパレスチナ人を切り離し、「PLOは、パレスチナ人の指導者ではない」とすることによって、西岸の親ヨルダンパレスチナ人を取りこもうと策動している。

こうした中で、アラファット派は自らの方向をどのように進めるかが問われている。被占領地人民の声は、ヨルダンとの共同ではなく、フセインを打倒し、ヨルダンからのパレスチナ人の解放を求める声としてあつた。しかし、三月六日のチュニスでのPLO執行委員会は、明確な立場を出しきれていない。

PNSF内では、この機に、PLOの再統一を作つていいこうという動きが、これまで以上に強くなつてしまふ。

るが、三月〇日のPFLPの声明に見られるように、PLOアラファット派がアンマン合意を明確に破棄していないことが、その障害となつてゐる。他のパレスチナ勢力も、アラファット派に同様の非難をし、そこにPLO統一にむけた障害があることを明らかにしている。

米帝のリビアへの軍事的恫喝。それは、中東における反帝イニシアチブとしてのシリアに対するものであり、米帝・イスラエルは、PLOと別れたフセインを単独和平へと一步進ませていくためにも、現在の軍事的緊張をより強化させていくだろう。アラファットは、いつそう困難な位置に置かれており、もう一度反帝の立場から、PLOの統一、シリアとの和解へと向かわない限り、その道は閉ざされてしまうだろう。

レバノンでは、イスラム左派勢力が対イスラエル戦を強化していくだろう。内部的矛盾をかえつても、対イスラエルを統一の軸に、シリアとの共同の中で調整しつつ進んでいくだろう。その中で、右派勢力は、米帝の側につくのか、シリアとの和解に向かうのかが再び問われてくるだろう。

その選択が、レバノン内のみんな

4 レバノン南部の鬭い

レバノン左右民兵組織三者の三者合意は、アミン・ジエマイエルの同意拒否とボベイカ追放によって、頓挫している。しかし、それ以降のキリスト教徒右派の動きは、むしろ、シリアのレバノン和解の努力を支持し、三者合意を基本的に支持するという立場を明確にしており、アミン・ジエマイエルは、シリアとの調停をいろいろと試みている。その一環として、ローマ法王特使の調停が行われたが、大きな成果はあげていない。むしろ大きな動きとしては、レバノン人民の鬭いが強化されているのに対して、イスラエルの大規模な弾圧作戦が展開されたことである。

二月一七日、南レバノンの「セキユリティゾーン」内ベント・ジュベイル付近で、レバノン民族抵抗戦線

スラエル側に六人の死傷者、二人の捕虜を出した。これに対し、イスラエル軍は、捕虜となつたイスラエル兵二名の捜査と称し、大規模な進攻を行つた。ヘリコプターからの機関銃掃射、戦車を使って、レバノンの村落を踏みにじり、破壊し、逮捕、拷問でレバノン人民を蹂躪した。こうしたイスラエルの侵略拡大に対して、レバノン人民の決死の攻撃が拡大していった。これらレバノン人民の絶えることのない抵抗を前にし、二月二三日、イスラエル軍は、捜査の中止決定を余儀なくされた。

三月二日には、ジエジーン地区で、レバノン民族抵抗戦線は、ロケット、機関銃、手榴弾などを用いて、イスラエルの手先である SLA を攻撃。その報復として、三月六日、SLA はリタニ川付近のシーア派の村落の三〇軒を破壊、非武装の村民を虐殺五人に負傷させる。

他方、味方内部で、共産党に対するアマルの攻撃で、小戦闘があつた。スラエル兵のパトロール隊を待ち伏せ攻撃し、イスラエル兵一人死亡、レバノンの下層人民の多くはシーア

の組織基盤が共通する。そこで、アマルが共産黨の勢力拡大を阻止しようとするとするところから、この衝突が起っている。かつてトリポリであつたような内戦状態になることを恐れた、レバノン左派勢力は、唯一の敵であるイスラエルに対して闘うことで一致することを統一の基軸に、両者に働きかけ、調停に至っている。

三者合意の意義を認めていないヒズバッラーは、アマルと競合しつつシーア派住民の間にその勢力を拡大してきた。それは、三者合意をより困難にする要素としてもある。だがイスラエルのレバノン侵略、占領政策の強化は、レバノン人民の反撃をかりたて、さらに強い抵抗とレバノン内戦の停止を求める力を増大させるをえない。したがつて、三者合意は、大局的にレバノン人民や他のアラブ諸國の認知を得ていく方向にある。しかし、内的民族的統一の方向は、階級的勢力の拡大なしには困難である。現状における安定は、シリリアの軍事力がその保障であり、レバノンの安定を求めようとすればするほど、シリアとの共同は必要とされるてくるだろう。その分、米・イスラエルのレバノン介入、挑発もひき

アラブ人民総体の意志を代弁するかのように、エジプトの治安警察軍はムバラク政権に対して大挙、叛乱を展開した。この叛乱は、治安警察軍の任期が三年から四年に変更されるという噂が流れた後に起きた。中央治安警察軍は、三万人いるといわれ、政府は、そのうち三〇〇〇人の叛乱でしかなかった、とうそぶいている。しかし、叛乱の規模は政府発表の何倍ものものであり、学生や市民も加わっていた。政府が何度も鎮圧または制圧の発表を繰り返さざるをえなかつたことの中にも、それがはつきりと示されている。また、叛乱派は、人民の支持を得ていたことも明白な事実である。エジプト人民の中に鬱積している不満、社会的矛盾が大きいにも拘わらず、ムバラク政権下、全く改善されていない経済状況に対する、人民の憤激が強大なものであることを現わしている。

叛乱鎮圧のために、軍が登場して、治安警察隊は投降を強いられたが、それに一週間も要した。ここに、ムバラクの指導性は決定的に弱まり、米国とより親密な関係にあるガザリ国防相の実権が強まっている。今後、

5 エジプトの叛乱

5 エジプトの叛乱

アラブ人民総体の意志を代弁するかのように、エジプトの治安警察軍はムバラク政権に対し大挙、叛乱を展開した。この叛乱は、治安警察軍の任期が三年から四年に変更されると、いう噂が流れた後に起きた。中央治安警察軍は、三万人いるといわれ、政府は、そのうち三〇〇〇〇人の叛乱でしかなかった、とうそぶいている。しかし、叛乱の規模は政府発表の何倍ものものであり、学生や市民も加わっていた。政府が何度も鎮圧えなかつたことの中にも、それがはつきりと示されている。また、叛乱派は、人民の支持を得ていたこともが大きいにも拘わらず、ムバラク政権下、全く改善されていない経済状況に対する、人民の憤激が強大なものであることを現わしている。

叛乱鎮圧のために、軍が登場して、治安警察隊は投降を強いられたが、巴拉クの指導性は決定的に弱まり、米国とより親密な関係にあるガザリ国防相の実権が強まっている。今後より親米・親イスラエルの方向で政局に影響を及ぼすことが予想される。

○日には、ナブルスでイスラエル兵一名を戦死させていた。

こうした人民の鬭いは、フセインとアラファトのアンマン合意に基づく和平ニーシアチブの破産に対する回答である。

PLOアラファト派は、ヨルダンとの共同という立場を捨てきれず、フセインの共同停止演説に対し、非難というより、アンマン合意に基づく和平ニーシアチブの破産に対する回答である。

人を取りこもうと策動している。ヨルダンとの共同ではなく、フセインを打倒し、ヨルダンからのパレスチナ人の解放を求める声としてあつた。しかし、三月六日のチュニスでのPLO執行委員会は、明確な立場を出しきていない。

PNSF内では、この機に、PLOの再統一を作つていこうという動きが、これまで以上に強くなつていて

るが、三月一〇日のPFLPの声明に見られるように、PLOアラファト派がアンマン合意を明確に破棄していないことが、その障害となつてゐる。他のパレスチナ勢力も、アラファト派に同様の非難をし、そこにPLO統一にむけた障害があることを明らかにしている。

米帝のリビアへの軍事的恫喝。それは、中東における反帝ニーシアチブとしてのシリアに対するものであり、米帝・イスラエルは、PLOと別れたフセインを単独和平へと一步進ませていくためにも、現在の軍事的緊張をより強化させていくだろう。アラファトはいつそう困難な位置に置かれており、もう一度反帝の立場から、PLOの統一、シリアとの和解へと向かわない限り、その道は閉ざされてしまうだろう。

レバノンでは、イスラム左派勢力が対イスラエル戦を強化していくだろう。内部的矛盾をかかえつつも、対イスラエルを統一の軸に、シリアとの共同の中で調整しつつ進んでいくだろう。その中で、右派勢力は、米帝の側につくのか、シリアとの和解に向かうのかが再び問われてくるだろう。

その選択が、レバノンのみならぬところから、この衝突が起つていている。かつてトリボリであつたような内戦状態になることを恐れた、レバノン左派勢力は、唯一の敵、イスラエルに対し闘うことであつて、それを統一の基軸に、両者に働きかけ、調停に至つてゐる。

三者合意の意義を認めていないヒズバッラーは、アルと競合しつつ、シーア派住民の間にその勢力を拡大してきた。それは、三者合意をより困難にする要素としてもある。だが、イスラエルのレバノン侵略、占領政策の強化は、レバノン人民の反撃をかりたて、さらに強い抵抗とレバノン内戦の停止を求める力を増大させざるをえない。したがつて、三者合意は、大局的にレバノン人民や他のアラブ諸国の認知を得ていく方向にある。しかし、内的民族的統一の方向は、階級的勢力の拡大なしには困難である。現状における安定は、シリアの軍事力がその保障であり、レバノンの安定を求める所とすればするほど、シリアとの共同は必要とされてくるだろう。その分、米・イスラエルのレバノン介入、挑発もひきづづき行われることになるだろう。

土地を守りぬかんとする西岸・ガザには土地防衛には本音の所で関心もなく、あれこれのスローガンや、他人を追いおとすことにのみ関心を持つパレスチナ人がいる。フセインに言わせると、二種類のパレスチナ人がいるのだ。

こう言う人がいるかもしない。「彼は要点をつかんでいる。汚ない解決案だが、率直に言って、我々は土地を守りたいのだ」と。なるほどだが、フセインは、どのようにして土地を守ると提案しているのか？

多くの革命的経験から導き出された一つの法則がある。力によつて略奪されたものは、力によつてしか奪還できない、これだ。我々のパレスチナ人民は、敵シオニストと長く闘争してきたし、シオニズム運動の経過も、シオニスト諸党派の政策もよく知っている。ここから導き出せるのは、奴らが西岸・ガザから撤退するのを期待できないということだった。死命を制するほどの弾幕下におかれた場合にのみ、イスラエルは撤退を考え始めるかもしれないが。フセインの言う土地を守る方法とは、このことなのか？ とんでもない！ フセインは、外交の腹芸を提案して

フセイン演説は、要約してみると、こうだ。

一、最初に土地（領土）問題の解決を。それから、（その土地に住む）生活している（人民の）問題を、何とかしよう。

二、アラブは、弱いし、本腰も入っていないのだから、外交手段で土地問題を解決しよう。

七一年の夏、我々は、ヨルダンで、フセイン相手に最後の闘争を展開した。その後、フセインは「連合アラブ王国（U A K）」案なるものを出してきた。米国およびシオニストのボス共の回顧録によれば、フェダイーンとの決戦の最中、フセインは、西岸・ガザ領有権を奴らからもらう約束をとりつけていたとのことだ。では、奴は、なぜ、その領土を取り戻せなかつたのか？ 奴は、リクードの綱領内容を知らなかつたのだろうか？ 奴は、自分が科学的であり、客観的であると大仰にみせびらかしている。我々は、我が人民に対する拘束、偽瞞性を暴露する義務がある。まず、シオニスト各党の土地をフセインに投げ与えて、なぐさめてくれるかもしれない、最後に！?

る重るそPをらいが指力

派の綱領をフェイインに学習してもらつてから、本当に武力抜きで領土奪回ができるものかどうか、高説を述べてもらいたいものだ！

フセインは、アンマン合意堅

フセインの狙いはPLO解体
フセインは、アンマン合意堅持の力説もしている。奴は、PLO右派指導部との共同調整中止を宣言したが、合意そのものは、未だ存続している。PLO現指導部がどこまでなら米国の軍門に下るのかということを、フセインは、よく知っている。PLO現指導部が既に行つた妥協はそのまま維持しておいて、自壊せざるをえないところで妥協に妥協を重ねさせようと、狙っているのである。

讃美の声におされて、しなじみと決定を受け入れざるを得なかつた由。奴は、P L Oに向かって「まあ、やつてみるが良いさ」とうそぶいた。
それなのに、二月一九日の演説では、ラバトサミット諸決定にきっぱりと反対した。今回は、「P L Oと私は決議二四二号、三三八号について一致しなかつたので、P L Oに委ねることにした」とは言わず、「私は、直接の当事者であり、ヨルダン川東・西岸とエルサレムに対する私の責任上、土地を守るために前進せねばならない」と、明言している。
とすればフセイン演説の政治的では、次のようなものだろうと、私は思う。P L Oに圧力をかけ、決議二四二号、三三八号承認を引き出すこと？ 東岸において自らの王位防衛か、とくにイスラエルによる間断な脅威から？ それとも、米国からの武器供与パッケージ確保の障害を除くためだらうか？ さもなくば、P L O現指導部に対するシリアの態度がP L O総体に及ぶという信念に基づいて、シリアとの関係改善をめざしているのか？
フセインの狙いは、形態はあれこれ変わろうと、先述した点を網羅することにある。だが、我々P F L P

我が同志、英雄、ゲバラ・ガザは、敵シオニスト部隊との戦闘で殉死した。この時の鬭いでは、他の二人の同志、アブデル・ハーディ・ハイクとカマル・アル・アマシも殉死した。この鬭いは、敵シオニストも認めたようだ。当時のガザ回廊地域は、昼間は敵が支配し、夜間は撤退し、フエダイ(ゲリラ戦士)に明けわたすような時代の鬭いだった。この、ガザのゲバラの鬭争の意義を深くとらえて、PFLPは、三月九日を「殉教者の日」と決めてきた。この記念すべき日に、ガッサン・カナファーニ、ワディア・ハダト、アブ・アマル、タフリッド・バトメをはじめとする、PLOとPFLPの旗の下に、パレ

る今日では、とりわけ重要なことである。現状は、綱領や諸計画を実行するための健全で科学的な理解と、さらに、革命を防衛し、勝利へと導く真剣な努力の必要を問うている。我々の革命は、一九八二年のシナニストのレバノン侵攻以降、そして革命が主要な基地ペイルートの失陥を余儀なくされて以降、新たな段階に入った。我々は、パレスチナの主義の帝国主義的・反動的な解決を考える、P L O 右派指導部の堕落を目のあたりにし始めた。我々の力をいつそう強化するために、ペイルートで敵に包囲されて闘った英雄的な防衛戦の経験を学びとるかわりに、我が堅固さを力にして、あの鬨いの中で敵が示した微力と逡巡への非難

フセイン国王の演説

PLO右派指導部の墮落が、この敵の在り方を励ましてきたわけだが、では、敵どもの諸計画は、一体何をめざしているか――。

土を守ることは重要だが、パレスチナ革命の殉教者、パレスチナ人民と大義全般を守ることなどとは別物である、といっている。

もう一つの論点は、現段階を、「侵略の諸結果」の清算、すなわち、西岸をヨルダン・ハシミテ王家領有にもどすこと、その他の諸問題交渉はその後でとしていることである。

PLOをパレスチナ人民の唯一合法の代表と承認した七四年のラバトサミット諸決定に関しては、どうだろうか？ この時の諸決定が領土回復の障害になつてきている、フセイントンは、こうほのめかしているのだ。それだけでなく、PLOの旗の下に統一されているパレスチナ人民を二分せんと企んでいる。何とかして

ヨルダン案の危険性を
資料①

國主義勢力の力関係を示すものとしてあるのである。

スチナの大義のために殉教した人々全員を思い起こす。我々は、彼らの殉教の栄誉をたたえ、我々も後に同じく子どもたちも、彼らが自由と郷土に殉じた人々を常に心に抱き、歴史の一ページに刻んで語り続けるだる

を投げ返すかわりに、PLO右派指導部は、反動勢力との関係を強化し始めた。指導部は、パレスチナの太義の解決を見出すのに、米国に与える影響からくる利益を期待した。我々は、この段階における我々の

な論点だけは強調しておきたい。
明らかに、フセインは、領土問題
をパレスチナ人民の民族的諸権利の
問題から切り離そうとしている。彼
は、国連決議二四二号と三三八号が
パレスチナ問題とアラブ・イスラエ

く行ってきた。しかし、PLOと、腐敗したPLO指導部とは別の存在である。レバノンとは、アミン・ジエマイエルのことか？ エジプトとは、ホスニ・ムバラクのことか？ そうではない。

PLOとは、アラファートのことではないし、ファタハ中央委員会のことでもない。我々の希望、我々の（るべき）民族的役割、対イスラエル戦に向けてアラブ民族解放運動をしていく闘いにおいて、我々パレスチナ人が持っている唯一の手段、これがPLOなのだ。PLOは、あらゆる場所におけるパレスチナ人である。

アンマン合意破棄

アンマン合意破棄 この機に乗ずるには、まず、アンマン合意を公然と、かつ明瞭に破棄することだ。フセインはこの合意を破棄していない。これを忘れてはならない。フセインは、PLOからパレスチナ代表権共同という合法的お墨つきをもらった。奴は、このお墨つきを保持したがっている。だからこの合意破棄により、パレスチナ人民の意志を明らかにせねばならないのだ。合意破棄がなされて初めて、眞の民族統一の土台ができる（敵の企てと対決していくうえで重要な第二点めが、これである）。

アンマン合意に調印した現指導部は、その破棄も行える。破棄へ向けて最大限広汎な民族的呼びかけを組織せねばならない。大衆的な破棄要求を結集させねばならない。だが、この機を最もすばやく活用し、民族統一回復のための土台を準備できるのは、合意に調印した現指導部である。今日に至るまで、指導部は何をしてきたか？ フセイン声明後、科学的分析にも拘わらず、「現PLO指導部が革命的利益を考慮し、アンマン合意破棄宣言を行うよう望む」と語った人たちの中に、私自身もいたのだ。数時間が経ち、数日が過ぎ

た。我々は、チュニスでの現指導部会議からの公式声明を、まだ、待っている。だが、まだ、何の音沙汰もない。このようないくには、事態を科学的に判断し、責任の所在を明確にすべき方向を示さねばならないのだ。民族統一のための客観的諸条件を、主体条件で補完せねばならない。すなわち、パレスチナ革命を担う全党が一つの共通の立場に立脚すること。だが、協定に調印し、今、破棄を宣言できるのにやらない現指導部と、それ以外の部分との間には、大きな差異がある。

我々PFLPは、次のスローガンを掲げる。PLOの状態について真剣に考えるための前段として、アンマン合意破棄要求の大衆的・民族的隊伍を構築せよ！

合意破棄は、ヨルダン連邦王国「構想」の破棄をも意味する以上、一つの質的発展をもたらすだろう。「連邦案」のような反民族的陰謀は、愛国的大土台をもってのみ破棄しうる。合意破棄後、米国の強制的「和平」案に現指導部が加担して推進してきた誤った路線の総括を共に行い、全力を挙げて教訓を導き出さねばならぬ。

一九三〇年代、私は少年だった。普通の大人がこう言っていたのを、今も、思い出す。「敵はユダヤ人じゃない。イギリスだぞ」と。我々は生きているのは、一九八六年だ。それなのに、P L O 公式指導部は、そうした基礎的な教訓、すなわち、植民地主義や帝国主義の助けを借りて民族の大義に何か獲得しようなどということ、いうことは無理なのだと、これを忘れている。

この経験を科学的に表現するためには、過去の教訓から学び直そうではないか。我々の権利獲得という名目で、帝国主義に賭けることは、ともかく、民族諸勢力でもない誤ちであり、パレスチナ民族闘争は、今後二度と犯してはならない誤ちである。もし、民族がこの教訓を自らのものとしないならば、よしんば統一をかちとったところで、当初から誤ちを内包したものでしかなくなる。

次に、我々は、政治路線を確立せねばならない。我々は単に口先だけの「政治」展開で満足するのか、それとも、人民大衆の教訓から学び尽して飛躍の契機とするのか。我々は第一に、民族綱領——帰還と自決、独立パレスチナ国家建設——を強調せねばならない。どんな党派も曲解

せるという方法がある。
演説の口調も、フセインの意図を如実に示している。曰く、六七年以降、自分は何とか「和平」を実現せんとイニシアチブをとったし、全てのイニシアチブに、ただし、サダト・イニシアチブを除いて、関係してきただ。——「歴史的、かつ大胆な」やり方のサダト・イニシアチブには関係しなかったのだそうだ。エジプト・前外相イブラヒム・カ梅ルが回顧録で言うには、フセインは、キャンプ・デービッド交渉の間中、サダトとの接触を継続したことだ。このようないいのは、こうだ。「私は、こうしたイニシアチブに関係し続けるつもりだ。米国が、この点をよく理解し、私の王位を守ってくれるよう願う」

は最後の攻撃として、我々を七九日間包囲し、せん滅せんとしたが、私は耐えぬき、未だ解体されていない。
我々は、PLO抹殺攻撃に、今、また直面している。現在の政情の危険は、ここに存在している。フセインが、万が一にでも成功するとしたら——決してそうはさせないと、私は確信しているが——奴は、帝国主義に最大の貢献をすることになろう、なぜなら、帝国主義とイスラエルはPLOの生命を欲しがっているのだから。フセインは、PLOが屈服、平伏するまでPLOを誘いこんだと自慢したがっている。もし、PLOがこれ以上乗ってこないなら、PLOを外してしまい、いわゆる「PLOの危険」なる地域を支配してしまふだろう。我々は、この策動に対決しているのだ。どのようにして、対決すべきか？

指摘したものだ。「私は、私のプラントを出した。君たちは、PLOがフレーガンは言つた次第。今後、敵は、セイン国王にパレスチナ代表権を渡すように、説得せねばならない」と、レーガンは言つた。その後、敵は、「親フレーガン」パレスチナーヨルダンロビンソンを作った。しかし、イスラエルの仕組んだ「村落同盟」の陰謀も破産したごとく、そんなロビンソン（圧力団体）をデッチあげたところで、パレスチナ人民の代表とみなされることは、やがて、不可能事と判明するだろう。アラブの大義名分を掲げるのも、難しいだろう。アラブ反動政権すらフレーガンの陰謀がアラブの大義に叶つてゐると言いくるめることができないし、どだい、奴らはガルフ戦で手一杯でもある。八五年のアラブ特別サミットで、どれほどの困難にフレーガンが直面したか、知らぬ者はない。当時、奴は、アラブの大義の一部しか名乗れなかつた。

三

P L O は、アラファトのことには、力に依拠し、自分たちのプランを作つて、展開していかねばならない。P L O が人民、人民の大義が危険にさらされているのだ。この問題をいかに解決したら良いだらうか？

からと言つて、合意条項修正受け入れの姿勢とみるとはできないだろう。シリアは、全条項、とくに宗派主義廃止を強く主張している。個人的見解だが、政治的会談がさまざまにもたれてはいるが、それで何か前向きなものが作れるとは思わない。

ジェマイエル・レジヤジャの連中は、三者合意に完全拒否の立場を採っているのだから。シリアは、あらゆる可能性を検討中であるが、趨勢からして、アミンージャジヤ一派をレバノン民族派が軍事制圧する以外、ものはや選択の余地が残されていないのではないか? 我々は、この点、シリアルアと検討中。この面で、大きな前進があつたと信じている。

ともかく、これ以上強調しても仕方ないが、アミンが現在、あれこれ政治的に立ち回ろうとしているのは、政治的対話の一切を封じこめんといふものだ。まあ、東ベイルートのお偉方に中で政治解決に傾き始めた連中がいて、アミンがそういう連中に圧力をかけていることは、この際おくにしても。したがつて、現状維持という趨勢に終止符を打つ軍事対決が必要になつてきている。

二月中旬を政治解決努力の期限とシリアルアが決めたとかいう風説がある

からと言つて、合意条項修正受け入れの姿勢とみるとはできないだろう。シリアは、全条項、とくに宗派主義廃止を強く主張している。個人的見解だが、政治的会談がさまざまにもたれてはいるが、それで何か前向きなものが作れるとは思わない。

ジェマイエル・レジヤジャの連中は、三者合意に完全拒否の立場を採っているのだから。シリアは、あらゆる可能性を検討中であるが、趨勢からして、アミンージャジヤ一派をレバノン民族派が軍事制圧する以外、ものはや選択の余地が残されていないのではないか? 我々は、この点、シリアルアと検討中。この面で、大きな前進があつたと信じている。

ともかく、これ以上強調しても仕方ないが、アミンが現在、あれこれ政治的に立ち回ろうとしているのは、政治的対話の一切を封じこめんといふものだ。まあ、東ベイルートのお偉方に中で政治解決に傾き始めた連中がいて、アミンがそういう連中に圧力をかけていることは、この際おくにしても。したがつて、現状維持という趨勢に終止符を打つ軍事対決が必要になつてきている。

PLO抹殺陰謀に対し自由に意見述べねばならない。パレスチナ人は、敵のいかなる策動にも屈しないほど強大であると、ここに宣言する。この策動に対決するうえで、他の側面もある。ヨルダンの民族運動の果すきわめて重要な役割、アラブ民族主義諸国、アラブ民族各解放運動の担つてゐる役割、世界中の解放運動が果してゐる役割、これらが主要な側面である。

PLLO併呑を狙うのは、フセイン一人に非ず。イスラエルは、パレスチナの大義そのものの絆体を抹消せんと画策している。リクードは、現労働党政権と政策協定し、入閣しているが、「自治」なるものを、もくろみを糾弾し、PLOをパレスチナ人民の唯一合法の代表として堅持することを宣言するパレスチナ人民の大衆的意志を、ありとあらゆる場所で結集することにある。私は、今、この場から、その闘いを始めようと、同志諸君に訴える。全ての町、キャンプに住む我がパレスチナ人民大衆が、

とか。シリアは、そんな期限を設定してはいけない。ただ、現在の危機を早急に解決することを望んでいた。レバノン民族勢力のほうでは、既に、軍事力で解決していくことを下したのだ。

二、レバノン民族勢力内の矛盾

アマルー共産党間で、戦略レベルの不一致はない。戦略において、レバノン民族戦線メンバー組織とアマーリーとは、一致している。我々は同一の目標を掲げ、民族利益にのつとつた諸原則に責任を負う覚悟でいる。

ペリ大臣は、大規模戦闘になつたら、各党派の政治的差異は乗り越えられると宣言したが、全く同感だ。イスラエルとその手先共から解放する事業を成功させるために、味方内小異を捨て、内紛の再燃を抑止することを進めていくだろう。

ペリ大臣は、大規模戦闘になつたら、各党派の政治的差異は乗り越えられると宣言したが、全く同感だ。イスラエルとその手先共から解放する事業を成功させるために、味方内小異を捨て、内紛の再燃を抑止することを進めていくだろう。

三、アブ・ダルガム参謀総長のアピール

このアピールを支持する。必要なことであつたと信する。長期的・短

期的に、彼のアピールは、レバノン

国軍始まつて以来、軍の役割に関する基本的な転換を示すもの。国軍が

アーティと、その支持勢力が、いわばキ

ヤンプ戦争の第二ラウンドをしかけようとしているようだ。さらに、そ

備が進められていくと思う。アラフ

アトと、その支持勢力が、いわばキ

ヤンプ戦争の第二ラウンドをしかけようとしているようだ。さらに、そ

備が進められていくと思う。アラフ

アの和解工作という話だが、シリアのアラファト政策は、非常に明白だ。我々は、パレスチナ人民の唯一合法の代表としてのPLOと、アラファト政策とを区別せねばならない。PLOの地位をアラファトと同列視しないことだ。

ヨルダン首相のシリア訪問は、パレスチナーシリア関係の枠に規定されない別の位相のものもある。中東において、イスラエル・米国の陰謀と対峙していくうえで、最低限のアラブの連帯維持という原則に基づき、共同の民族戦略を結実させんとするアラブの努力の調整に関連するものであった。

五、東ベイルート内の権力闘争
これ以上暴力的衝突がないとは断言しかねる。マロン派権益を何が何でも死守せんとする潮流のおかげで、理性的対話を牽引し、三者合意に真剣な対案を提出し政治解決を前進させる能力をもつ相手たり得ないことがわかった。東ベイルートの混乱は、個人、または集団としてでも、民族派勢力、シリアとの対話に入ることに彼らが恐怖の念しか抱けないのだとか、考える以外に、説明のしようがない。東ベイルートのお偉方たちと

きたら、シリアとの交渉に歓迎の意を何とか表明した時点でも、今後、どうやって、どういう内容で交渉を進めめるのか、決定しかねているくらいだ。どうしても避けられぬ決定を何とか引き延ばそうとして、クリスチヤン代表権を東ベイルートがとるためにさらに軍事作戦をかけしかけ、結局は、当の代表権問題の解決を妨害しているだけなのだが。

ビキルキ会議後のコミュニケに言及するなら、概して、真剣に対話する道を示していると言つても良いだろ。民族的解決の意志を具体行動をもって示すなら、という条件つきをもって示すなら、という条件つきだが。レバノン人民が自らの解放と進歩のために捧げた犠牲に見合う具体行動の話だが。ともかく、コミュニケはコミュニケで、謳い上げている諸原則をどういう具体方針へつめていくのか、そこが要であろうし、つめないとしたら、問題が残る。

レバノン大統領をマロン派の特権としてあくまで守るのに固執したら、

みだ。体制の合法性は、その体制の指導者が決めるものではないという

資料③

軍事対決は一切の政治回路が閉じられた時にのみ

アマル運動の指導者、ナビーハ・ベリ氏とのインタビュー

(二月一一日)

答 聞いてはいないが、もし、フランス元大統領のコメントが、政治的宗派主義廃止を意図するものだったならば、それはそれで、この問題についても、我々の間に何の不一致もないということだ。

問 三者合意の基本点のうち、いくつかに対するフランジエ元大統領の反対にコメントを。反対点には、共和国大統領の権限案、それに、立法府の代議員をイスラム・キリスト両教徒で等分し、さらにキリスト教徒側の代表をキリスト教主要三宗派で等分するという、いわゆる議会構成員の「二分一三分」案が含まれているが……。

答 フランジエ元大統領は三者合意に同意し、それが正常な議会的手続きを経ることを提案したわけで、結果的に、彼は、あなたが質問の中で言及したような反対意見を一つとて表明してはいない。したがって、我々とフランジエ元大統領との間に何の不一致の理由もない。

問 しかし、一月二九日の週例記者会見で、三者合意に述べられているような議員の宗派的分割に対する反

答 私は、こうした呼びかけには反対で、最近では二月六日にそのことを表明した。我々は三者合意の実施とそれを阻む全てのものの除去を要求する。ジェマイエル大統領が三者合意の認を拒否したことが、彼への辞任要求の主要な理由だった。しかししながら、ジェマイエル辞任の呼びかけは、我々を問題の真の原因、改革の必要性からそらすものであつてはならない。

答 我々は、三者合意実施を求め、政治的宗派主義廃止のいかなる呼びかけも支持する。

問 あなたは、しばしばパレスチナ・キャンプでの戦争の勃発を警告し、しかしそれは、昨年五月の戦闘ほど長くは続かないだろうと、予告してきた。PLO議長、ヤセル・アラ法トの現在の動きを覆い隠すためとキャンプへの武器流入に関する彼の最新の声明の見地から、そうした戦争が起ると予想しますか？

答 現在、新しいキャンプ戦争の煽動者は、アミン・ジェマイエルとその政権だろう。ジェマイエルは戻りはまっており、西ベイルートで問題を煽動する以外、逃げ道はなくなっている。彼は誰が勝者となるかに關係がない。彼が望んでいるのは、人民に、問題は彼の三者合意は関係がないと証明することだけだ。彼は、このために、現在ではパレスチナ・キャンプを利用している。我々の情報によれば、多くのパレスチナ人戦士が、東ベイルートを通じて、キャンプに潜入してきている。アマル運動とパレスチナ民族救済戦線との間で、アマル対パレスチナ人の対立を防ぐため

に日々会議がもたれていることは秘密でも何でもない。アマルと共産党との間でも、アマル-PSP間でも、長い間、あるいはPSPと民族シリア社会党との間でも、あちらこちらでそうしたことが行われている。先に述べたような陰謀は、西ベイルートで問題を起こすこと、東ベイルートの緊張を和らげ、それによって三者合意実施を妨害する者どもへの関心をそらすことを狙っている。

問 最近、あなたは、もし情勢がいつそう悪化し、戦闘が大規模に発生したならば、いわゆる政治的「限界」は無視されるだろうと発言しないだろうか？

答 あなたの言う介入はすでに行使している。米国人たちが、アメリカのレバノンにおけるこれまでの大失敗をとりつくろえるとは信じない。彼らは、それによって現在、南部に敵対している。米国は、南部にとつて好んで統合する。その時になって初めて、現制度下で特権を持つ者は、最後の時がきたことを認識するだろう。私はそう信じている。自分たちを守ってくれていると彼らが考えていく権力が、その時レバノンから追い出されるだろうから。イスラエルのレバノン居すわりが三者合意失敗の原因だ。

問 三者合意の失敗は最終的なものか？ 再生の可能性はあるのか？

答 これは、レバノンにおけるイスラエルという要素の強度による。それが削減されればされるほど、三者

のアラブアート政策は、非常に明白だ。我々は、パレスチナ人民の唯一合法の代表としてのPLOと、アラファト政策とを区別せねばならない。PLOの地位をアラファトと同列視しないことだ。

五、東ベイルート内の権力闘争
これ以上暴力的衝突がないとは断言しかねる。マロン派権益を何が何でも死守せんとする潮流のおかげで、理性的対話を牽引し、三者合意に真剣な対案を提出し政治解決を前進させられる能力をもつ相手たり得ないことがわかった。東ベイルートの混乱は、個人、または集団としてでも、民族派勢力、シリアとの対話に入ることに彼らが恐怖の念しか抱けないのだとか、考える以外に、説明のしようがない。東ベイルートのお偉方たちと

に日々会議がもたれていることは秘密でも何でもない。アマルと共産党との間でも、アマル-PSP間でも、イスラエルは、御存知のように、いままだに南部に存在する。民族抵抗戦線の作戦を予防するとの口実で行われる南部諸村への砲撃は受け入れ難い。つい最近では、イスラエルは、アマルがジェマイエルに報復攻撃をかけてくるだろうと考えていた。これらは戻ったが我々はひつからなかつた。

こういったわけで、闘争は南部がいつまで続くだろう。その時になってアマルがジェマイエルに報復攻撃をかけてくるだろうと想っていた。これらは南部に誠実な関心を示さないのか？ 我が國の大使館が反対の意図で接触を重ねている時、安保理常任理事国と会い南部問題を討議するだけでは、充分ではない。

問 アマル運動はPSP、ムラビト

ウーンそしてパレスチナ人と衝突してきた。最近の報道は共産党との衝突を伝えている。アマルに対するいわゆる「陰謀」があるのか？ それともこうした衝突は、あなたがたの誤算の結果か？

答 公平にみて、アマル運動は、国全体に対する陰謀と同じ陰謀の対象であると言いたい。单一の統一した

レバノンという我々の信念の結果、他の誰

よりもこうした陰謀に苦しめられた

きた。だが、このことは、我々が絶

たものは力によつてのみ奪い返せる
ということわざの真実を証明していく
る。けれども我々は、UNIFIL
結果として国連全体が南部にとどま
り、イスラエルの行動を目撃してほ
しいと願つている。

UNIFILは、政府からも、ア
ラブ諸国からも、また一般に世界の
国々からも無視されできた南部の住
民に、一定の安全を保障し、社会上
医療上のサービスも維持している。
今のところ、UNIFIL駐留の
更新に対する保証ということについ
ては、何らの情報も私は持っていない
。けれども、この問題に関する欧
州の態度については情報を持つてい
る。フランスはUNIFIL駐留継
続への支持を表明し、イタリアは、
すでに駐留している兵站部の強化に

益にならない。
一一年間の痛苦の年月がたって、
国際社会は、レバノンに対し、南部
にU N I F I Lを維持する責務を負
っていると、私は信ずる。

問 あなたとジュンブラット大臣が
発した軍事的対決の警告は、三者合意
反対派に単に政治的圧力をかける
ためだった、という見解がある。い
くつかの観測筋の見解では、そのよ
うな対決は現在ほどんど考えられな
いからだというが、こうした見解に
ついてどう説明するか？

答 我々は軍事対決を呼びかけた
りしていない。我々は常に問題の政
治解決のほうを好んできた。だが、
政治的手段が失敗した時には、他の
方法を使うことが余儀なくされると

問 第二期を勤め、選舉に勝つこともできるかもしれない。もし大統領候補者が自分はレバノンを救えると考えるなら、彼は第二期を勤め、選舉に勝つこともできるかも知れない。だが、このことは、レバノンの運命が個人の意志に委ねられているなどということを意味するものではない。先ほども言つた通り、政治的手段が失敗したら、力を使うことを余儀なくされる。私は、政治的回路が閉じられた時のみの軍事対決を呼びかけたのだ。

問 どんな時に軍事対決になると見たらよいのか？

答 我々が政治に完全に絶望した時だ。これまでのところ失望はまだ全面的ではない、といえる。

経済情勢は悪化の一途をたどり

なく、全国を同じようにするものだ。価格統制では経済情勢の悪化を阻止できない。こうした情勢はレバノン・ポンドの下落、治安情勢、政府の無責任によるものだ。現状はさらに悪化しさえするかもしれない、ついに人民革命を招くような状況に至るだろう。

問 しかし、レバノン社会を分断している宗派感情の真ただ中で、我々は人民革命など語れるものだろうか？

答 東ベイルートの当局者は積極的発展を円滑にするため、宗派感情を利用し続けている。とはいえ、情況が耐えがたいものになれば、人民は最終的には政府の策略を全面的に悟り、それを乗り越えるだろう。これ

ルの政策は、UNIFILをSLAを使って挑発するというものである。イスラエル当局は時間の余裕をもっており、再びUNIFILの南部撤退への希望を表明したということだ。我々は、UNIFILがイスラエルを南部から撤退させることができないということを完璧に理解している。米国の連続的拒否権行使による

諸国はUNIFIL駐留に好意的であり、これが多分、ハマディ大臣の意味した国際的保証だ。同様に、ソ連もUNIFILの役割には敵対していない。こうしてアメリカの態度だけが疑わしい問題として残る。それは、とくにUNIFIL予算の削減をアメリカが奨励して以降。UNIFILの撤退は、国際平和にとって

私は、個人的に大統領の辞任を呼びかけた際、大統領が喜んでそうするわけがないことは知っていたが、といって彼の辞任に圧力をかけるため、力の行使を呼びかけたりしなかつた。私は健全な民主的方法を用いて、彼の任期を四年ないし三年半に短縮するよう提案したのだ。何人かは、これは結局は同じことだと考へ

これを阻止する具体的方策もたてられていない。なぜ、アマル運動やP.S.P.ほか諸党派は、東ベイルートで行われているように、委員会を設置して生活必需品の価格統制をしないのか？

対に正しいと言っているのではない。したがつて、一方で、陰謀が強大としたことがあり、他方で、我々の生策が、煽ったというわけではないがトラブルの増大を助長している。

持つていてる特権や議席の数に、もはや関心を持っていない。マロン派市民の唯一の関心は、国の統一とレバノン人の共存だ。イスラム市民も同様に解放されたレバノンとひとつのがグループが他に対し特権を持たずすべてのレバノン人が平等に生きることを望んでいる。

リーンラインを支配する不安定な政治情勢の結果だろう。そこで改めて日時が取り決められた。この会談の結果で、私は彼らの活動が新しいアーチを体現しているものなのかそれともアミン・ジェマイエルの政治的立場を映す鏡となるしかないのではないかをコメントすることができます。」

クウェート、アルジエリアにはすでに何回も行っている。だが他の国へはレバノン問題のため訪問できない。」

この議員たちは、ジエマイエルの陰謀が暴露されてから接触を開始した。マロン派無所属議員は、現在、それが政治交渉を導き出すかもしれないという期待から、さまざまの党派の意見を評価しようとしている。しかし、ジエマイエルはそのような和解の動きにさえ反対している。彼が唯一の公式のスポーツマンではないという印象を、彼らが与えたからである。この（マロン派無所属）ブラックの接触は現在、舞台裏で行われているということだ。

問 マロン派無所属の努力およびこの三者合意への修正導入要求を見るか？

答 まず第一に、もし要求されていける修正が、一派の利益でなく、公共の利益のためのものであるならば、我々としても、回答を与える前に、検討してみなくてはならない。実際には、私の得た情報では、マロン派無所属ブロックの活動は、この方向に向かってはいないようだ。彼らは私との会見の約束をとりつけ、日にちを伝えてきたが、キャンセルされ

て、どのような軍事的・政治的動きがイスラエルのさらなる領土獲得を抑止するためになるとれるだろうか？この問題をアラブ諸政府との会談の場にもちこむことを考へているのか？

答 イスラエルがいわゆる「国境安全地帯」にとどまる限り、レバノンを完全に併合しつつあるというふうなことがより正確だ。イスラエル抑止の唯一の道は、民族的抵抗を通しての民族抵抗だ。イスラエルがいる限り、民族的抵抗はその活動を停止しないだろうし、活躍しつづけるだろう。私のアラブ諸国訪問への意志についてだが、

の会見で、この四月、UNIFILの駐留期限を更新するとの国際的保証があると語ったが、保証とは何か？信頼しえぬものであった場合、南部の情勢はどうなるのか？

答　我々は、国連暫定軍(UNIFIL)の南部駐留を要求しており、それに対するいつそうの支援とその人員の増加とを望んでいる。さらにもう一つ、我々は安保理決議四二五号の実施とレバノン軍の国際的に認められた国境に至るまでの展開とを呼びかけている。これはアマル運動の七年以來の立場だ。つまり、安保理

が私の予測だ。

一方では、米国特使リチャード・マーフィーのロンドンにおけるイスラエル首相シモン・ペレスおよびフェイン国王との会談。他方では、ヨルダン・パレスチナ会談。これらをどう評価するか?

答 フェイン国王とヤセル・アラフ

アトの会談からも、また、ヨルダン・パレスチナ合同代表団とイスラエル当局者の直接交渉が行われた場合に異なるであろう米国の役割からも、何も生まれてこないと思う。安保理決議二四二号、三三八号に対する拒否を継続する、という最近のPLOの態度は、これらの交渉が被占領地のパレスチナ人に益することはないだろうと、PLOが認識していることを示している。諸会談は挫折し、PLOは政治的対話より抵抗に重きを置いたその基本的優先原則にたち戻るだらうと信じている。このことはレバノン情勢にもよい結果をもたらすだらう。

月刊 中東レポート

1986年4月30日 第10号

月刊 中東レポート

1986年4月30日 第10号

・ ファルーク・アルシャラーと会談。
二月二日(日)

① マロン派代表、ダマスからもどり、

アミン・ジェマイエル、イブラヒム・ヘルー司教と会談。

② ジュンブラット、ベリ、ホベイカは、ダマスカスで、カッダムと会談。

③ 南部、ビント・ジベル附近で、SLA民兵一人が待ち伏せ攻撃で死亡。

④ 南部、ジエジーン近くのいくつかのSLA拠点を、レジスタンスが攻撃。

⑤ パレスチナ、エマルとの三日間の戦闘停止。一〇人死亡、三〇人負傷。

⑥ 西岸ジエリコ市で、イスラエル兵を乗せたバスに手榴弾と石が投げこまれる。イスラエル放送は被害はなしと報道。

⑦ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

⑧ イスラエル国防相、イザク・ラビンは、ソ連

西岸ジエリコ市で、イスラエル兵を乗せたバスに手榴弾と石が投げこまれる。イスラエル放送は被害はなしと報道。

⑨ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

⑩ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

⑪ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

⑫ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

⑬ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

⑭ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

⑮ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

⑯ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

⑰ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

⑱ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

⑲ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

⑳ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉑ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉒ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉓ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉔ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉕ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉖ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉗ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉘ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉙ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉚ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉛ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉜ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉝ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉞ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

㉟ イラン、ソ連外相補佐官、ゲオルギ・コルニエンコ、両国関係改善のためイラン訪問。

④ 国會議長フセイン・フセイニは、三者合意について討議するための議会招集拒否。

① イスラエル

① リビアのトリポリからシリアのダマスカスへ向かうリビア機、イスラエル機二機にハイジャックされ、「イスラエル領内」に強制着陸させられる。アブダラー・アルアフマールがいた。彼は、トリポリの「アラブ民族の革命勢力司令部」の集会に参加していた。この司令部は、その日、イスラエル軍事スポーツマンは、リビア機が「テロリスト」を運んでいると考えられたので、と語る。乗客の中に、シリア・バース党のアブダラー・アルアフマールがいた。彼は、トリポリの「アラブ民族の革命勢力司令部」の集会に参加していた。この司令部は、その日、ヨルダン兵に殺された。

二月五日(水)

② イスラエルのパトロール兵二人、ヨルダン兵に殺される。

① 南レバノン、サイダ市東一〇キロにあるクファル・ファルスでレバノン進歩勢力と右翼SLAの戦闘。

② チャーレス・ヘロ司教は、ジョセフ・ハーシュムと一緒にアミン・ジェマイエルと会談。

③ パレスチナ

PLOは、イスラエルによるリビア機の強制着陸を非難。

① カイロにイスラエル代表団到着。

② ネゲブ砂漠を仮想攻撃目標にして、米軍第六艦隊は、コーラルシー、サラトガら空母からの戦闘爆撃機による空爆を演習していることをペンタゴン当局認めることを表明。

③ スーダン

IMFはスードアンに対する新たな貸し付けを停止。

④ イスラエルによるリビア機強制着陸を非難。

⑤ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑥ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑦ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑧ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑨ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑩ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑪ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑫ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑬ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑭ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑮ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑯ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑰ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑱ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑲ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

⑳ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

㉑ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

㉒ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

㉓ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

㉔ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

㉕ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

㉖ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

㉗ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

㉘ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

㉙ イスラエルによるリビア機強制着陸を再開。

会談の失敗は、中東和平交渉がふりだしに戻ったことを意味する」と語る。

① リビアのモハムード・アブ・ダルガムはレバノン軍兵士に、政治紛争、内戦に参加しないことを呼びかける。

② パレスチナのアラファト、フセインとの会談成

果なし、何の声明もなしにアンマンから出発。「アラファトがアンマンから離れたことは、和平交渉の終りを意味する」と言われている。

③ リビアのアラファトとメキシコは原油価格下落に対し、同

OPEC未加盟のエジプトとメキシコは原油価格下落に対し、同

じに反応。エジプトは、「アラファトとメキシコは原油価格下落に対し、同

の反イスラエルデモに参加したとして)。

②サウジ、クウェート外相、アサド大統領に会い、イラン・イラク戦争停止への援助を要請。

- エジプト

①タバ問題の討議のため、イスラエルを訪問していたエジプト代表団が、わずかに進展。次回は三月はじめにカairoで討議継続。

②ムバラク大統領は米議員、チャーリス・ワイルソンと会い、米国との対エジプト経済援助について討議。今年度の軍事経済援助額は二一億ドル。追加援助二・五億ドル。

- チャド

①フランス軍派遣。

②リビアは即時停戦を双方に呼びかけた。

- レバノン

二月一七日（月）

- ①南レバノンの「セキュリティゾーン」内のベント・ジュベイル附近で、レバノン民族抵抗戦線の戦士とイスラエル兵交戦。イスラエル兵六人死傷、二人が逮捕された。

②イスラエル軍、南レバノンへ侵攻し、二人のイスラエル兵の捜査を大々的に行う。

- ①経済政策をめぐって、リクードと労働党の対立激化。米国の援助があるとしても、イスラエル独自の経済立て直しのため節約が必要とするペレス案をめぐって。
- ②シャミル、ペイルートでユダヤ人を殺したシーザー派に対し、懲罰の方法を見つける、また、レバノンに残っているユダヤ人を国外に移す方法を探す、と語る。
- ・サウジアラビア
- サウジアラビア、英國からこれまで最大の武器輸入契約締結（七〇億ドル）。
- ・リビア－米国
- リビアに滞在する米人グループ、レーランのリビア旅行禁止措置に反対を表明。
- ・イラン・イラク戦争
- ①双方とも、一〇〇〇人の死者を出したと声明。イラン側は、クウェート国境まで侵攻したといい、イラク側は、それを撃退させたと発表。
- ②サウジ外相、イラクのサッダム・フセインと会談。シリアとの会談は有効だったと語った。
- ③エジプトは大量の武器をイラクへ輸送。

- ・ 仏軍、最初の二〇〇人に加え、一
二〇〇人を増強。
- ・ チャド
- 二月一八日（火）
- ・ レバノン
- ① イスラエル軍、ヘリコプター、戦
車を使って南部レバノンで、誘拐
された二人のイスラエル兵の捜査
継続。「イスラム抵抗戦線」が誘
拐の責任を表明。
- ② スペイン大使館員三人誘拐さる。
誘拐者側は、スペインにつかまつ
ている二人のシーア派教徒の釈放
を要求。
- ・ パレスチナ
- ガザでの手榴弾攻撃で、パトロー
ル中のイスラエル兵五人負傷。
- ・ シリア
- アサド大統領、仏「リベランソン
紙とのインタビューの中、イス
ラエルとの交渉反対、単独和平交
渉にも反対を表明。
- ・ エジプト
- ムバラクはアラファトが暴力を減
らそうと努力しているとして支持
を表明。
- ・ イラン・イラク戦争

争について討議。

- ①ペイルート、散發的銃撃戦。
- ②イスラミック・ラリーの代表団（ハリド・ハッサンを長とする）、シリアのア訪問終了後声明発表（シリアの籠戦努力支持）。
- ・イスラエル
- ①東西スペイ交換で、シャランスキーリー釈放され、ベングリオン空港に着く。
- ②シャミル、米国へ。
- ・シリア
- ・エジプト
- タバ問題などの討議のため、エジプト代表団イスラエルへ。
- ・イラク・イラク戦争
- イラクはバスマ東北の島を奪回したと発表。
- ・リビア－米国
- リビア沖で軍事演習。
- 二月一二日（水）
- ・レバノン

- ・イスラエル
- ①シモン・ペレス首相は、フセイン放軍（）が砲撃戦。PLAの三人死亡、四人負傷。SLA側については不明。
- ②イスラエル－コート・ジボアード国交成立。
- ③シャミル、ジュネーブ。
- ④ピース・ナウとカハネ党衝突。
- ・リビア－米国
- 米第六艦隊、リビア沖で演習開始
- 一五日までの予定（他方リビアも海空で演習中、八日から一八日まで）。
- ・イラン・イラク戦争
- イラン側の声明によれば、イラン

- ・パレスチナ
アラファト、カイロでムバラクトと会談。
- ・イスラエル
タバ問題についてのエジプトとの会談は予定より短い時間で解決。エジプト代表団は、一五日まで滞在する。
- 二月一四日（金）
- ・シリア
ゴラン高原で、イスラエルの占領に反対する大規模なデモ。
- ・リビアー米国
リビア沖に米航空母艦サラトガとコータルシーを派遣。
- 一月一五日（土）
- ・レバノン
イスラエル軍、戦果なく撤退開始。そのあとにレバノン軍強化。
- ・パレスチナ
PFLPは、アラファトのカイロ訪問を批判。ひとつは、米国務省

- ・ヘルツォグ大統領は、被占領地内のパレスチナ指導者の暗殺を行なうテロリスト地下組織の二人の刑事犯死刑執行にサイン。
- ・イラン・イラク戦争
- 二月一六日（日）
 - 島附近で戦闘。
- この間の激戦六日目、マジスーン
- ・レバノン
- サイダでサード・ムスタファの暗殺計画一周年デモ。
- ・パレスチナ
- 三人のパレスチナ人にイスラエル軍事法庭はエルサレムでの爆破を行つたとのカドで終身刑判決を下す（彼らはファタハメンバーとされている）。
- ・イスラエル
- エルサレムで二つの爆破。一人軽傷。
- ・シリア
- ①ゴラン高原でイスラエル軍に六人

- レバノン共産党間で戦闘。四人死亡、八人負傷。
- パレスチナ
- ①エルサレムで、三つのバス停攻撃。**二月二十六日(水)**
- ②ナブルスのパレスチナ人キャンプで、イスラエル軍の政策に反対する女性、子どものデモ。「なぜ逮捕や、家宅捜査するのか?」
・イスラエル
- ①シャミル外相、トムス・ピクリン米大使と会談。フェイン声明、PLOへの態度など討議。
- ②ヘルツォグ大統領、エルサレムでの第四回国際ユダヤ人会議で、西侧指導者に、レバノンの「反テロ」政策に従い、国際テロと闘うよう呼びかけた。
- 二月二五日(火)**
- パレスチナ
- PLOのアブ・イヤド、フェイン声明に驚いている、ヨルダンとのコンタクト今後もつづける、と語る。
- エジプト
- ECは、PLOを含む中東問題和平交渉のための外交努力をすることを決議(イスラエルは早速、ECA)を開始。
- EC

- Cの決議を非難)。
- ソ連
- 第二七回ソ連共産党大会開始。
- シリア
- 被占領地ゴランを訪問したペレスに対し、ゴラン住民はペレスの車を包囲し攻撃。
- イスラエル
- ペレス、占領地パレスチナ人の「自治」増大の計画あり、と発言。
- エジプト
- 治安警察軍部隊の反乱に対し、カイロ市に外出禁止令発令。空港閉鎖。一五人死亡、三〇〇人負傷。反乱に、学生や市民も加わっている。
- 二月二七日(木)**
- パレスチナ
- アラファト、トルコ訪問終了の記者会見で米国批判、ヨルダンとの共同イニシアチブは米国がパレスチナ人の民族自決権を認めないと失敗したのだ、と。
- シリア
- アサド大統領、バース党第二五回大会開催の演説の中で「ゴランはイスラエルとの国境ではなく、シリアルアの心臓部である」と語る。
- 米国

- フセイン王、「PLO指導部との政治的共同は以降不可能である」と宣言。三時間余のスピーチで、PLO・アラファト議長との共同を停止すると声明。
- 米国
- 国務省スポーツマン、ロナルド・カーンはレバノン南部の治安と安定およびイスラエル北部の治安のため、再びレバノンとイスラエルの保安協定が必要であると語る。
- レバノン
- ①南レバノンのイスラエル軍による捜査継続。IRFは一人を殺したと発表したが未確認。
- ②南レバノンで、イスラエル軍に対するレバノン抵抗運動による決死の攻撃激化。
- ③レバノン共産党中央委員が西ベイルートで暗殺された。レバノン共产党は、イスラエルのエージェントの仕業であると声明。
- ④ベイルート郊外で、大統領派と左派の間で戦闘。六人死亡、一人負傷。
- ペレス、フセイン王がPLO・アラファトと共同しないと声明したこと歓迎。また驚くことではない、と語る。
- イスラエル

- ナイジェリアと国交確立へ。
- エジプト
- 外相は、フセイン声明について、ヨルダンとPLOの交渉が終ったわけではない、エジプトは、あらゆる方法を使って、和平交渉を続ける、と語る。
- イラン・イラク戦争
- イランは、イラクがイラン民間機を落とし、四〇人が死亡と発表。イラクはそれを否定。
- スペイン
- シーア派の要求拒否。
- 米国

- レバノン、UNIFILの管轄下にある二二の村にイスラエル軍侵入、不明イスラエル兵二名捜索の名の下、侵略行為を続ける。三〇〇人をチャック、八〇人を逮捕。各地で戦闘。
- レバノン民族同盟戦線(LNAF)はレバノンおよびアラブ民族に敵対する敵の野望と闘う方法について討議。PNSF代表、ジュンブラット(PSP)、ベリ(アマール)、カンゾー(バース党)、アブ・ファデル(国会副議長)、ハウイ(レバノン共産党)、サアデ(LSSN)、ハルブ(ASUP)らが参加。
- イスラエル
- ペレス、経済計画で一致できないなら、举国一致政府は不可能である、と反対派に警告。
- レバノン
- ペレス、ラバノンからイスラエルへ侵入し作戦を行おうとしたDFLP三戦士は、イスラエル兵と交戦二人死亡。
- パレスチナ
- ①レバノンからイスラエルへ侵入し作戦を行おうとしたDFLP三戦士は、イスラエル兵と交戦二人死亡。
- イラン・イラク戦争
- イラクは化学爆弾を使い、多くの市民が負傷しているとiranが発表。
- ヨルダン
- フェイン王は、PLOをパレスチナ人民の唯一の代表と規定した、七年のラバト会議決議の再検討をはじめて公けに要求。
- パレスチナ
- ①イスラエルに任命されたナブルス市長、ザヘル・アル・マスリ、PFLPの「ゲバラ・ガザ隊」によって暗殺される。占領軍は直ちに軍への攻撃。
- パレスチナ
- レバノン民族抵抗戦線は、南部のジェジーン地区でロケット、機関銃、手榴弾などで、SLA軍を攻撃、三人死亡、数人を負傷させたと声明発表。南部ナバティエ地区その他でもイスラエル軍、SLA軍への攻撃。
- パレスチナ
- ①イスラエルに任命されたナブルス市長、ザヘル・アル・マスリ、PFLPの「ゲバラ・ガザ隊」によって暗殺される。占領軍は直ちに外出禁止令発令。
- イスラエル
- ②東エルサレムでも爆弾闘争。
- モシェ・レビ、「セキュリティゾーン」を維持強化すると声明。

